

UNFPA インターンシップ報告

文教大学国際学部国際観光学科4年の更科です。2018年10月より、国連人口基金(UNFPA)東京事務所で長期インターンシップに参加しています。国際協力の分野で働いてみたいと思ったきっかけは、イギリスでの9か月間の留学から帰国した直後、日本大学英語模擬国連(JUEMUN)に参加したことです。その時の経験から、国際協力に携わる仕事をしたい、実際に国際機関で働いてみたいという思いが強くなり、国際理解学科の生田祐子先生に進路を相談していたところ、国連人口基金東京事務所でインターンシップがあることを知り応募に至りました。

国連人口基金の本部はニューヨークにあります。世界中に事務所を置いています。私がインターンをしている東京事務所は「連絡事務所」として主に支援国への広報や政策提言(アドボカシー)を行っています。特に、世界の人口問題や性と生殖に関する健康と権利(SRH/R)の関心を高めるための活動を行っています。インターンとしての業務は、担当する仕事に関して、所長補佐の上野さんからアドバイスを受けながら、仕事の手順マニュアルが用意されているので、それに従って進めていきます。例えば、国連人口基金東京事務所には、世界人口に関する質問や問い合わせが届くので、それに対応するのもインターンの仕事のひとつです。また、プレスリリースやメールの翻訳作業を行い、国連人口基金に関するデータや資料の作成も行っています。基本的にはオフィスでのデスクワークですが、2018年11月には、国連人口基金東京事務所とUN Women日本事務所と協催で「女性に対する暴力撤廃の国際デー」記念上映会・トークセッションを開催したので、インターンとして準備期間から当日のイベント運営まで携わることができ、非常に有益な仕事の経験となりました。

仕事中は、常に勉強不足だと感じるばかりですが、国連人口基金東京事務所は、インターンとして行う仕事に対して、担当者から丁寧なフィードバックを得ることができる素晴らしい研修環境だと思います。そして、国連人口基金でのインターンシップは、何よりも実際に国際機関がどのように世界の諸問題の解決に貢献しているのかを間近で知ることができる貴重なチャンスです。授業では知り得ない国際社会のリアルな現場を毎日実体験でき、大学での学びの集大成とも言える経験をしているように思います。残りの数ヶ月の間、国際学部での学びを積極的に活かしていけるような働きができればと願っています。

国連人口基金とは、

「人類が直面している最重要課題の一つである地球的規模の人口問題を、単なる数の問題ではなく人間の尊厳の問題として取り組んでいる国連機関です。

特に政策づくりと実施の両面から、家族計画や母子保健の支援、ジェンダーに基づく暴力や

女性や女兒に有害な慣習の撲滅を目指し、性と生殖に関する健康と権利（SRH/R）を推進しています。また国勢調査を含む人口統計データの収集・研究調査などの支援活動をしています。これらの活動を通して、特に女性のエンパワーメント、貧困削減などの持続可能な開発目標の達成に取り組んでいます。」

（国連人口基金東京事務所 HP：<https://tokyo.unfpa.org/?eid=00008>）